

# 夢 塾 だ よ り

## ～ 好きなことをする ～

(第 63 号) 令和 4 年 10 月 25 日

瀬戸内寂聴（じゃくちょう）さんは、大正 11 年生まれ 99 歳の作家です。なき母とほぼ同年齢です。寂聴さんの最新作『寂聴 97 歳の遺言』を読みました。共感するところ大でした。

『・・・大切なことは「本当は自分が何をやりたいか？」・・・その本当にやりたいことをやっていたら幸せになります。ただ、自分が幸せになるだけでなく、自分以外の誰かを幸せにするかどうか、そこを考えてください。誰かの幸せのために自分のやりたいことをやっていたら、一時の失敗とか成功とか結果はあまり気にならなくなる。だから自分のしたいことをしたほうがいいのです。・・・』



『・・・その人の好きなことがその人の才能です。生まれてきた以上は、誰かのために自分は生きているんだと思ってください。あなたを見ただけで心が明るくなる人が必ずいます。誰でも誰かの生きがいになっているんですよ。・・・』

『・・・私は今のところ墓石には、「愛した、書いた、祈った」と彫ってもらう予定です。・・・』

ある人は「政治家は時代に請われて時代に捨てられる」と言いました。瀬戸内さんの本を読んでこう思います。「作家は時代に請われて、時代に捨てられることなく時代を超えて永遠に生き続ける」と。

私も講演を依頼されてお話をさせていただくこともありましたが、「なぜ勉強するのですか？」の問いには必ずこう答えました。「それは、あなた以外の誰かを幸せにするためです」と・・・「将来何の職業についたらよいのかわかりません」の問いに対しては「あなたが感動した場面を思い出してください。その近くに適する職業があります」と。

水彩画教室の著名な講師の先生が私たち生徒に言った言葉。「皆さん、絵を描くには才能が必要だと思いますか？・・・絵には才能なんかありません。どれくらいの強い気持ちで絵を描きたいか、それが才能です」と。

好きなことをやれる幸せをかみしめて、「ぎっくり腰」の最中、書いてます。